

龍耳

卷之三



1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4

始



繪入  
籠耳

かづれじ  
奥よみう  
白居元  
三

305  
119



蘇東坡集卷之三

卷之三

日録

ひくいはく今れんあ良物  
自古以來の御物

貧乏乞食  
作らぬをまへ  
集めりひづらのあらむる意地のこぞれ

あくまでの威政  
甘苦りあらじこゑてのうやまを禁がす  
かく裏

とくに  
れどもあきこし  
角界 勇衛  
くにまくらめく  
とびぐ  
生  
る  
むじよへそ  
ゆゑやとべ難  
角界激ある邊の事



猿取草子卷之三  
 八  
 狗子か一路  
 独交焉禡  
 肩古五  
 田舎者新馬六  
 甘利山外を本津金筋流が保  
 伊賀の上野ゆくもとれ。猪のふきもともくらま  
 はやかられて。ゆくもとれ。さほんとくもくわ  
 がよ。と北傳とそり。力らわ。され錦の玉内とね力と  
 佐もそんれきて。林立。まに。物よをそり。ゆくわ  
 こひ。あくべり。あくと。ゆに。物よけ。は。錦の巻  
 もよく。あくと。が。よ。錦と。そく。よ。よ。林の  
 夜よ。あくと。よ。り。ゆ。れ。そのちく。よ。力。重  
 きよ。あくと。よ。り。ゆ。れ。それ。よ。く。よ。く。よ。が  
 う。れ。よ。く。よ。り。よ。く。よ。く。よ。が。

ものよそぞのくわすりとめ氣のまへきりづくひめ  
たそりあくまきとあくへうそ外れいとくもんをも  
んやとく。錦の巻とくわくひかとくとあくとくせ  
られまよ。朝良物のよまがふく。と北かくふくに  
く。それよどての内ものもそくらか。よく物よれと  
つるよくうよくとくじく。わ條氏政ハ能書哥弟の  
所内よふ事。折もまよに意くさうせきよとす中南義  
の氣がごんきさづきとれものゆくおうとア合なる。  
氏政史一とくもよ。アヒトとみまく御体の奇と  
よきうしめ

後ハシケ。称よむ。蝶乃かくとく

かのまへる。前のくへよ  
とまくまくわされまくやまくのゆくもまく

### 食之圖

世よと病の切るようぐんとお作え、幣團とちうげ  
て善者とよどじあくゆめ。一そん作もよゆゑく  
人の元病を今ハ作どてもかふおよびきぬと。幣團  
よあきよも醫者のまどりと。十人十人ねじらか後  
とある様子とくべをもる。これと幣團のくどりふても  
はぬよれぞう病くゆく。はゆよれぞう見く。作もと  
らしよくもあら。又作鮮すようくくよれもとく。作  
命よとくもとく。あわきとく。又作鮮すよとく。作  
命よとく。あわきとく。又作鮮すよとく。作



とあくの事と敵國といひにへれと敵の事ニ  
牧よつ星者のるを人浦幸としらる一牧はいれす  
てげ病氣海よそりまよとくべられよみうとくとく  
や小行よみうとくもーわれよちがよよりがまとも  
もらじがれどまゆりてき惜とぐ。とく直の拂  
せり醫者二くさればれ外假二人わせばと敵の事  
幣園とくろんよいづと一様ふあぐさまびーと  
車服け医者とくろんひがくあぐまくわく  
あぐよねとびて幣園の事ともうくとく外の医者  
にもよせぬとくろく。いゆく彼事とあぐじよとくろく  
されぬ人魚のまよひととおうて正直の事わく  
安あらわるがわくかくよとくわーにとくとくとく



あすかはまきもじうひよりがまそひる物がう眼  
指とうりてゆく。いまがへくらんをうらに。一ふは徳政  
乃れうちうち徳政と歎きもれを貪らまも  
入やかの御とまくまか不、てんせんを取  
りても徳政のものもあらむ  
じまくとのがもあらまくとて  
じくる物もあらえゆひたぐはお入する  
正室おのまくに、よりもくとく  
ぬわをまと着へりえれこころ裁綉  
あれへ縫ひられへ造化もあれ  
うれのくよくおもねりうをくめりうる  
みゆみゆ物が、おもねりうをくめりうる  
ふ仕合ともあらむとくわげれきとくへくらんをもど

感わらずふみに  
ともゑとぞれまふ  
むかひこぎく  
十



ぬ經とよしをも乃てわきひの法も徳社かく金剛經  
般若經とよし例もよし樹林松柏より御ゆゑぐら  
りと一李衛公とよし人中少孺一てひづく入く  
ほれぬ。こに丹ぬまう門とぞそよる家わざうち  
ふつらとまばわがどぬ。さむくらむくねりとく  
に一後とわくぬそへ後やくんどうとふみにのと  
ちくが。門とあくとてあくた色李衛公門とぞきて  
す。べーくらす。あ。これ女李衛公とぞくわやとて  
いと。そひあすと人る世よはくめのうえくきんぢいば  
すと。すれをやわす。じへりがくくゆようト罪乃  
民早懲とぞれひそをそとくぬごととおうあくよま  
もとこよひぬとくとだくとくねくよまくうう



蘇といひ都とくと蒼鷹とつて御教みくらぐ  
いづくの名よ鶴先後(鶴先後)牛もか牛も鹿大す代虎  
ねねむるも鶴も象もどりとくいじとよすやされすとみと  
神仙(仙)ぬよと牛久天皇も頬観る端末師尾葉  
師とわいフ人や人をとづそちあまとてとくいとく  
とくと御(御)ても教高類よたとくあすもあらと  
喰人(食人)と鶴鶴といひ小男と鶴鶴といひ達人とあ鶴  
いひ(人)と牛久(牛)とくし躁人(躁人)と素(素)ぬ丈とくひ  
頸(頸)免(免)鉄(鉄)狼(狼)眼(眼)鬼(鬼)萬(萬)蠻(蠻)腰(腰)鷹(鷹)脚(脚)猫(猫)宵(宵)猿(猿)豹(豹)脚(脚)光(光)蹠(蹠)  
鶲(鶲)腋(腋)眼(眼)鶲(鶲)膚(膚)猩(猩)猴(猴)牛(牛)起(起)鷦(鷦)立(立)蝶(蝶)鷗(鷗)笑(笑)とくとく

すうおとくちのまへ嘆の下にうけまくとくわゆ通鱗  
あら人されようとと見へ命とくうと監も看るゆ候  
とそりと見へ命とくうと監も看るゆ候  
とつとあ爲わくえみへ怒と遡鱗とくとくが  
もえすと桂枝とくとくとむとむとくうと史記韓  
う傳よとくとくと桂枝とくとくとくうと傳  
とくとくと桂枝とくとくと桂枝とくとくと桂枝とく  
ア魚のやうねとくとく侍のうえわふと鬼の用小もえみ  
とくとくと桂枝とくとくと桂枝とくとくと桂枝とく  
じきらと年かまだあれどもおなよとて射捨とく  
さうとくとくと桂枝とくとくと桂枝とくとくと桂枝とく  
じとくとくと桂枝とくとくと桂枝とくとくと桂枝とく



糧とあてて野へはうもべへ人のよひてらへと見  
大乃頭よ文とゆふへけたがふす御身  
わんのぐく氏政れ陳る上又千鶴雜兵六万  
くとよせあれハ野も黒も見えぬ人取  
て物とあく坐化ひがれいよはくに  
よゆへはまくとてやくねよ平豊にまそと三  
あれどをとむとび狀とひじれ時自とされ  
四五里ゆかどりわざくとももとぞよまれ  
あきて色状とあく坐小田の大乃頭よ忙ひつ  
きと陳とあら根煙を見日中のゆめとひつ  
とみうちけんやくに小田よ本まへてたゞいよ  
とあやとえめふまくも上りよわよまきよ三

卷之三

能為牆

肩善惡

おまかわしよ。おとせ花もあまび  
ておんはまくと義よ。人との歌で遊ぶが  
身しげそめ宜かよはれてゆく。葛葉  
の家じづりにとけ西姫がふきのせど見  
な足跡かとて、縁脛みけよ食  
をとて、物とあらあひとすらひる  
むとあらぬとさるはせとひる  
うとひるもやくうへ

305  
119

印行三百部之内  
號

明和十四年三月廿五日印刷  
昭和十四年三月廿八日發行

新生期  
第五回

書院會  
非賣品  
東京市牛込區富久町八十四番地  
編輯兼發行者 山田清作  
印 刷 者 佐藤謙之介  
製 本 者 阿部鍋五郎  
本 著 者 池上幸二郎  
東京市牛込區富久町八十四番地  
發行所 米山堂

終